

# 産業日本語プロジェクト 平成28年度の活動予定

Technical Japanese Project in FY2016

一般財団法人日本特許情報機構 特許情報研究所調査研究部研究企画課長 **白土 博之**

平成18年特許庁入庁。繊維包装機械、福祉機器、熱機器分野の審査官のほか、情報システム室、英国留学等を経て、平成28年4月より現職。

✉ hiroyuki\_shirato@japio.or.jp

## 1 はじめに

「産業日本語」の取り組みについては、過去のYEAR BOOK 上で度々ご紹介しているが<sup>1</sup>、今回は、平成28年度の活動予定についてご紹介したい。

### 1.1 「産業日本語」とは

「産業日本語」とは、「産業・技術情報を人に理解しやすく、かつ、コンピュータ（機械）にも処理しやすく表現するための日本語」として定義される。明瞭な日本語文を作成し、それに対して機械翻訳を始めとする種々の言語処理技術を活用することによって、高品質な翻訳文を低コストで作成することを目標としている。

企業活動のグローバル化と、IT技術（インターネット）の発展により、ビジネスシーンでの我が国から外国への情報発信の必要性や機会は拡大している。国際共通語としての英語に加え、ASEANやBRICs等の新興市場の拡大により、日本語・英語以外の言語によるコミュニケーションの機会も増加の一途を辿っており、多言語での情報発信が急務となっている。機械翻訳は、そのための有効なツールであるが、日本語は、「以心伝心」という言葉にも表されるように、状況や文脈に意味が依存する高コンテクストな言語である。したがって、適切な理解のためには行間を埋めて解釈する必要があるが、このことは、機械が苦手とするところである。

そのため、日本語文章が、数式のように論理的で明確

に記載されていたり、あるいは構造化されていたりするなど、原言語である日本語を機械にとってフレンドリーなものとするにより、目的言語がいかなる言語であっても精度よく低コストで機械翻訳できることが求められている。これは、産業日本語のコンセプトとも合致するものである。この点、昨今話題の人工知能において自然言語処理技術を利用する際にも同様であろう。

以上のように、産業日本語が果たす役割は大きいものと考えている。

### 1.2 産業日本語プロジェクトの目的

産業日本語プロジェクトでは、産業日本語の研究活動を通じ、特許文書を始めとする産業・技術文書や、契約書等の法的文書など、ビジネスで展開される文書を主な対象として、主に以下の点を目指している。

- (1) 人にとって理解しやすい明瞭な産業日本語の確立
- (2) 機械翻訳の精度向上に有効な産業日本語を通じた翻訳の品質・効率の向上
- (3) 産業日本語の普及

(1)、(2)は前述1.1の産業日本語の定義から導き出されるところであるが、そのためには(3)のように産業日本語の認知・普及も重要である。

## 2 これまでの活動経緯

一般財団法人日本特許情報機構（Japio）では、特許情報の専門機関として、自然言語処理、特許翻訳、知的

1 <http://www.japio.or.jp/00yearbook/index.html>

財産、情報工学等の専門家の協力を得ながら、特に、特許文書に注目した「特許版・産業日本語」に関する検討を、平成19年度から進めている。これまでの特許版・産業日本語の活動は、大別して2つのアプローチで進めてきた。一つは、産業・技術文書の記述に用いられる日本語文書や文章の構造、使用する語句等を、その文書に求められる機能や性格に応じて設定されるルール（仕様やマニュアル）を定めて標準化する、日本語そのものの明瞭化に関するものであり、もう一つは、文書・文章の構造を記述するためのオントロジーの設計といった、文書の構造化に関するものである。特許文書は、複雑な係り受けの長文形式や、独特の言い回しなど、他の産業・技術文書とは異なる特徴を有している。また、企業活動のグローバル化に伴う特許出願国（パテントファミリー）の多様化により、多言語翻訳が必要となる。そのため、特許文書には、明瞭な日本語文の作成と高品質な翻訳文の低コストでの作成が特に求められるとして、産業日本語の検討対象としてきた。

また、平成21年度からは、高度言語情報融合フォーラム（ALAGIN）との相互協力のもと、「産業日本語研究会」を発足させている。当該研究会は、特許版・産業日本語委員会とは独立した組織として、特許分野に限らない産業日本語全般に関する活動を行ってきた。特に、産業日本語研究会・シンポジウムを毎年度開催しており、直近の第7回シンポジウムでは、会場を丸の内として近辺に勤務するビジネスマン等への産業日本語の認知度向上を目標とするなど、産業日本語関連の有識者講演等を通じた産業日本語の普及に努めてきた。

以下、直近3年の活動を列記する。なお、過去の活動報告については、前述のYEAR BOOKのほか、過去の特許版・産業日本語委員会の報告書<sup>2</sup>も参照されたい。

#### 【平成25年度】

- <特許版・産業日本語委員会>
  - ・特許ライティングマニュアル（初版）発行
  - ・特許ライティング支援システムの活用プロセス可視化
- <産業日本語研究会>
  - ・第5回産業日本語研究会・シンポジウム開催

## 産業日本語研究会

- 目的：
  - 産業日本語に関する各界の専門家が研究交流を行う場を提供し、その研究・開発・普及を円滑に進める。
- 活動：
  - ・シンポジウム開催（年1回）
  - ・産業日本語研究会ウェブサイト運営
- 協力機関：
  - ALAGIN（高度言語情報融合フォーラム）
  - 言語処理学会
  - Japio（一般財団法人日本特許情報機構）



## 特許版・産業日本語委員会

- 目的：
  - 特許分野での産業日本語の利活用を推進する。
- 活動：
  - ・タスクフォース等の設置及び活動
  - ・ワークショップ開催（年1回）
  - ・特許版・産業日本語委員会ウェブサイト運営

### タスクフォース等

図1 産業日本語プロジェクトの検討体制（～平成27年度）

#### 【平成26年度】

- <特許版・産業日本語委員会>
  - ・特許法第36条ルール化の検討
  - ・特許ライティングマニュアルの普及及び改訂に向けた検討
  - ・構造化クレームを用いる請求項文ライティングマニュアル（第1版）
  - ・木構造形式によるライティング支援の検討
  - ・グラフ形式に基づく文書作成支援の検討
- <産業日本語研究会>
  - ・第6回産業日本語研究会・シンポジウム開催

#### 【平成27年度】

- <特許版・産業日本語委員会>
  - ・特許法第36条ルール化の検討
  - ・特許ライティングマニュアルの普及及び改訂に向けた検討
- <産業日本語研究会>
  - ・第7回産業日本語研究会・シンポジウム開催

2 <http://japio-tjp.org/doc.html>

### 3 平成 28 年度の活動予定

平成 28 年度は、これまで独立した別組織（図 1 参照）であった産業日本語研究会と特許版・産業日本語委員会とを統合し、産業日本語研究会直下に分科会を設置する（図 2 参照）というのが大きな変更点である。それに併せて、特許版・産業日本語委員会、産業日本語研究会の両ウェブサイト統合する予定である。その他、第 8 回産業日本語研究会・シンポジウムの開催、特許ライティングマニュアルの改定版発行を予定している。

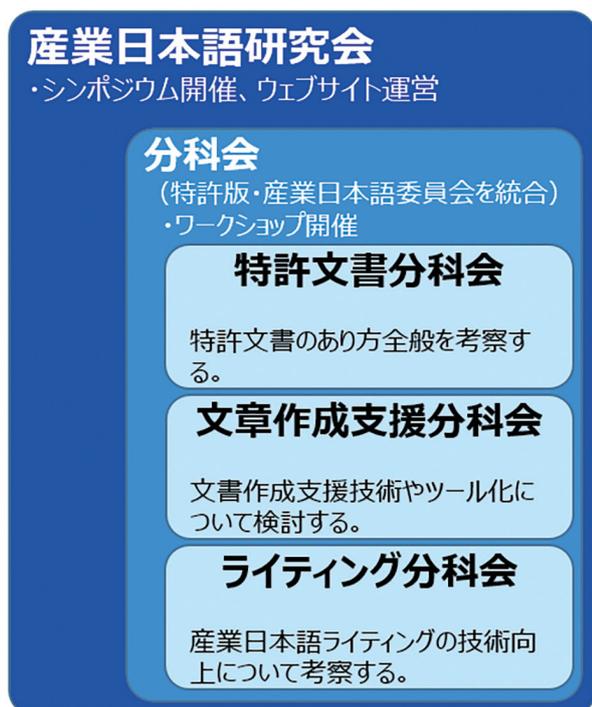


図 2 産業日本語プロジェクト研究会の検討体制（平成 28 年度）

#### 3.1 分科会活動

平成 28 年度は以下 3 つの分科会を設け、日本語そのものの明瞭化及び文書の構造化というこれまでの 2 つのアプローチを踏襲し、過去の特許版・産業日本語委員会等の活動成果を引き継ぎつつ、それぞれの観点で産業日本語に関する活動を進めることを想定している。なお、下記の各分科会名は、本稿執筆時においていずれも仮称である。

##### ・特許文書分科会

特許文書のあり方全般を考察する。特許法第 36 条ルール化検討グループ会議の活動成果を引き継ぎつつ、特許文書の品質向上のためのチェック手法の検討として、

特許文書のチェックリスト作成、分野毎の特許文書の品質評価（定量化）などを想定している。

##### ・文書作成支援分科会

文書の構造化について人工知能との関係を意識しつつ考察する。構造化クレームタスクフォースや、グラフ形式による文章作成支援研究の活動成果を引き継ぎつつ、ビジネス文書の構造化の検討（人間にも機械にも理解しやすい文書構造の検証）などを想定している。

##### ・ライティング分科会

産業日本語ライティングの技術向上について考察する。特許ライティングマニュアルタスクフォースや「日本語マニュアルの会」<sup>3</sup>の活動成果を引き継ぎつつ、「伝える日本語」（読み手に正確に伝えるための日本語）をターゲットに、産業日本語の書き方、特に、目的や用途に応じた日本語文章の書き方の検討などを想定している。

#### 3.2 その他の取り組み

毎年ご好評を頂いている「産業日本語研究会・シンポジウム」は、前回と同様、今年度も丸の内での開催を予定しており、分科会活動報告のほか、言語処理、日本語ライティング、機械翻訳など産業日本語に関連する幅広い範囲の内容についてご紹介する場を設ける予定である。読者の皆様が奮って参加されることを期待している。

また、平成 25 年度に初版を発行した特許ライティングマニュアル<sup>4</sup>は、冊子版、電子版を合わせて 1500 部を超える数を提供させて頂いており、産業日本語の一定程度の認知・普及に寄与しているものと理解している。産業日本語の一層の認知・普及に向けて、初版発行以降の検討内容を踏まえた第二版発行を目指していきたい。

さらに、特許版・産業日本語委員会と産業日本語研究会の統合に伴い、両者のウェブサイトを統合する予定である。今後の産業日本語プロジェクトの活動成果を掲載し、一層充実した内容をもって情報発信できるよう努めていく所存である。

3 <http://ngc2068.tufs.ac.jp/nihongo/htdocs/>

4 <http://japio-tjp.org/wmanual.html>

## 4 おわりに

今年度からの産業日本語プロジェクト検討体制の一新により、前述の「明瞭な日本語文の作成と高品質な翻訳文の低コスト作成」という産業日本語の大目標を見つめ直し、引き続き産業日本語プロジェクト活動を推進して参りたい。今後とも関係の皆様のご協力を賜れば幸いであるとともに、産業日本語の認知度向上も今後の課題として、活動を進めていく所存である。

なお、本稿に記載の内容は筆者の私見に基づくものであり、産業日本語研究会や Japio 等の公式見解でないことを付記する。

## 5